

中 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	
1	研究構想図	4
2	仮説の検証	4
V	研究の内容	
	〈指導例1：第1学年〉	5
	〈指導例2：第2学年〉	11
	〈指導例3：第3学年〉	17
VI	研究の成果と課題	23

道徳的実践意欲と態度を育む多様な指導の工夫

I 研究主題設定の理由

1 道徳教育の動向

平成 27 年 3 月、学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び学習指導要領の一部改正に関する告示が公示され、これまでの「道徳の時間」が、小学校で平成 30 年度から、中学校で平成 31 年度から、「特別の教科 道徳」として教科化されることが示された。

告示では、平成 27 年度からは移行措置期間として、「特別の教科 道徳」の内容の一部又は全部についての先行実施が可能であるとしている。これを受け、都内公立小・中学校等においては、『特別の教科 道徳』移行措置対応 東京都道徳教育教材集¹などを活用して、「特別の教科 道徳」の先行実施に取り組んでいる。

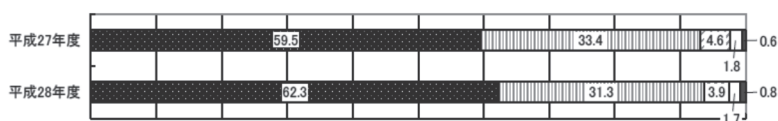
また、平成 28 年 7 月には、道徳教育に係る評価などの在り方に関する専門家会議から、多様な指導方法の確立や評価の在り方などについて、より具体的な方向性が示された。²

平成 31 年度からの中学校での「特別の教科 道徳」全面实施に向け、「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る」³こと、すなわち道徳の授業を、多様な指導方法を取り入れ、より質の高いものへと転換させていくことが求められている。

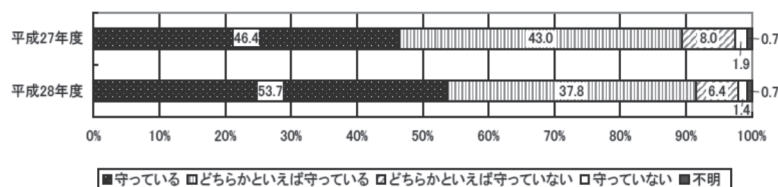
2 生徒の実態と課題

道徳科の指導においては、「道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められ」ている。⁴しかし、実際に生徒たちの様子を見てみると、例えば、思いやりの心の大切さについて取り上げた授業において、他の生徒の範となるような発言をしていた生徒が、授業の直後に他の生徒に対して相手を傷つけるような発言をしているといった場面も認められる。

③ 学校の規則やきまりを守ることが大切だと思いますか。



④ 学校の規則やきまりを守っていますか。



(「平成 28 年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」 p. 222 より)

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」生徒質問紙調査⁵においても、「学校の規則やきまりを守ることが大切だと思いますか。」という質問と、「学校の規則やきまりを守っていますか。」という質問との調査結果を比較すると、規則やきまりを守ることの大切さを分かっている

1 平成 28 年 3 月 東京都教育委員会編 小学校版・中学校版各 1 冊

2 『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて（報告）平成 28 年 7 月 22 日

3 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 p. 2

4 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 p. 13

5 東京都教育委員会 平成 28 年 7 月（中学校第 2 学年対象）

がら、実際には守れていないという生徒が少なくないという実態が見えてくる。

その背景には、道徳の時間の授業が「生徒に望ましいと思われるわかりきったことを言わせてたり書かせたりする」⁶ものになってしまっているという反省もある。しかしその一方で、特に中学生という発達段階においては、周囲の目を気にしたり、正しく行動することを否定的に捉えたりするという実態もある。頭では分かっているものの、行動に移せない、あるいは誤った行動をしてしまう点に、中学生という発達段階の課題があると言える。

3 研究主題の設定

このような道徳教育の動向や、生徒の実態・課題を踏まえ、本研究では、道徳的諸様相として示される四つの要素⁷のうち、特に生徒の道徳的実践意欲と態度を育むという点に着目することとした。

また、「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導」、「発達段階などを十分に踏まええず、児童生徒に望ましいと思われるわかりきったことを言わせてたり、書かせたりする授業」⁸といった、これまでの道徳の時間の課題として指摘された内容を踏まえ、より着実に生徒の道徳性を育むためには、ねらいとする道徳的価値や生徒の実態、活用する教材などに応じて多様な指導方法を工夫することが必要であると考えた。

以上のことから、本研究では研究主題を「道徳的実践意欲と態度を育む多様な指導の工夫」とし、効果的な指導方法の工夫について考察・実践・検証することとした。

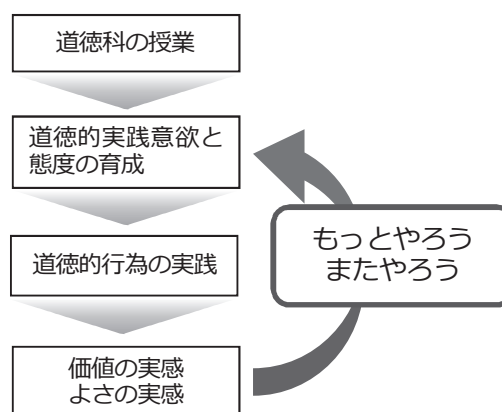
II 研究の視点

1 道徳的実践意欲と態度を育む

教師は生徒に対して、道徳的価値に基づいた行動ができる、道徳的に正しい判断や人としてこうありたいという心情を実践できる人であってほしいという願いをもっている。

道徳的実践意欲とは「道徳的価値を実現しようとする意志の働き」であり、道徳的態度とは、「道徳的行為への身構え」である。⁹したがって、道徳的実践意欲と態度が十分に育まれていれば、道徳的な行為が求められる場面に遭遇したときに、求められる行為を実践できるはずである。そして、実際に行動してみてその「よさ」を実感できれば、次もまたやろうというように道徳的実践意欲と態度が強化されていく(図1参照)。そのようにして生徒が主体的に道徳性を育ていけるようにすることも、本研究のねらいとするところである。

図1 道徳的実践意欲と態度の強化のイメージ



2 多様な指導方法を工夫する

『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて(報告)では、道徳科の指導において重要なこととして、「学習指導要領の趣旨をしっかりと把握し、指導する教師一人一人が、学校の

⁶ 文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実」平成27年3月

⁷ 四つの要素は道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲、道徳的態度。

⁸ 文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実」平成27年3月

⁹ 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 p.17

実態や児童生徒の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた適切な工夫改良を加えながら適切な指導方法を選択すること」¹⁰を挙げ、「道徳科における質の高い多様な指導方法」の一例として、

- ・ 問題解決的な学習
- ・ 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- ・ 道徳的行為に関する体験的な学習

の三つのモデルを示している。¹¹

本研究では、道徳的实践意欲と態度を育むための多様な指導の工夫について、この三つのモデルを参考として、実践・検証にあたることとした。これは、今求められている道徳の授業の在り方についての理解を深められると同時に、モデルを実際の授業へと変換していく上での課題を明らかにすることもできると考えたことによるものである。

III 研究の仮説

— 仮説 —

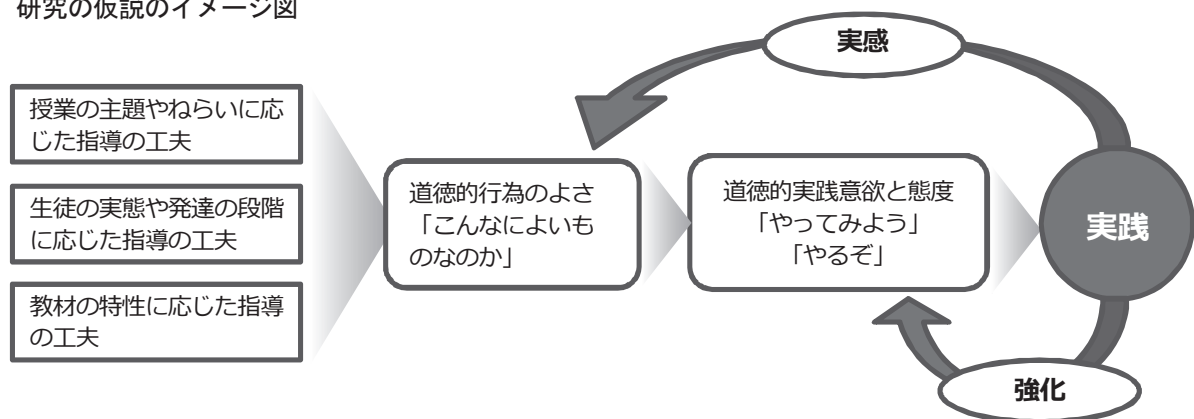
授業の主題やねらい、生徒の実態や発達の段階、教材の特性などに応じた多様な指導方法を工夫して道徳的行為を実践することのよさを実感させることを通して、道徳的価値を実現しようとする意志や道徳的行為への身構えをもたせることができ、道徳的实践意欲と態度を育むことができるだろう。

本研究は、「道徳的实践意欲と態度を育む多様な指導の工夫」を研究主題とし、『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて（報告）』に示された三つのモデルを参考に、道徳的实践意欲と態度の育成に重点をおいた指導の工夫について考察する。道徳的实践意欲と態度は、道徳的行為の実践によって道徳的価値を実現することのよさを実感することによって育成・強化される。そして育成・強化された道徳的实践意欲と態度が、次の道徳的行為の実践へとつながっていく。

つまり、道徳的实践意欲と態度は道徳的行為の実践との相関を踏まえて育んでいくことが有効であり、そこに、本研究が目指す指導の工夫の方向性があると考えた。

そこで、本研究では、研究の仮説を上記のように設定し、検証授業を行うとともに、その成果と課題について検証することとした。

図2
研究の仮説のイメージ図

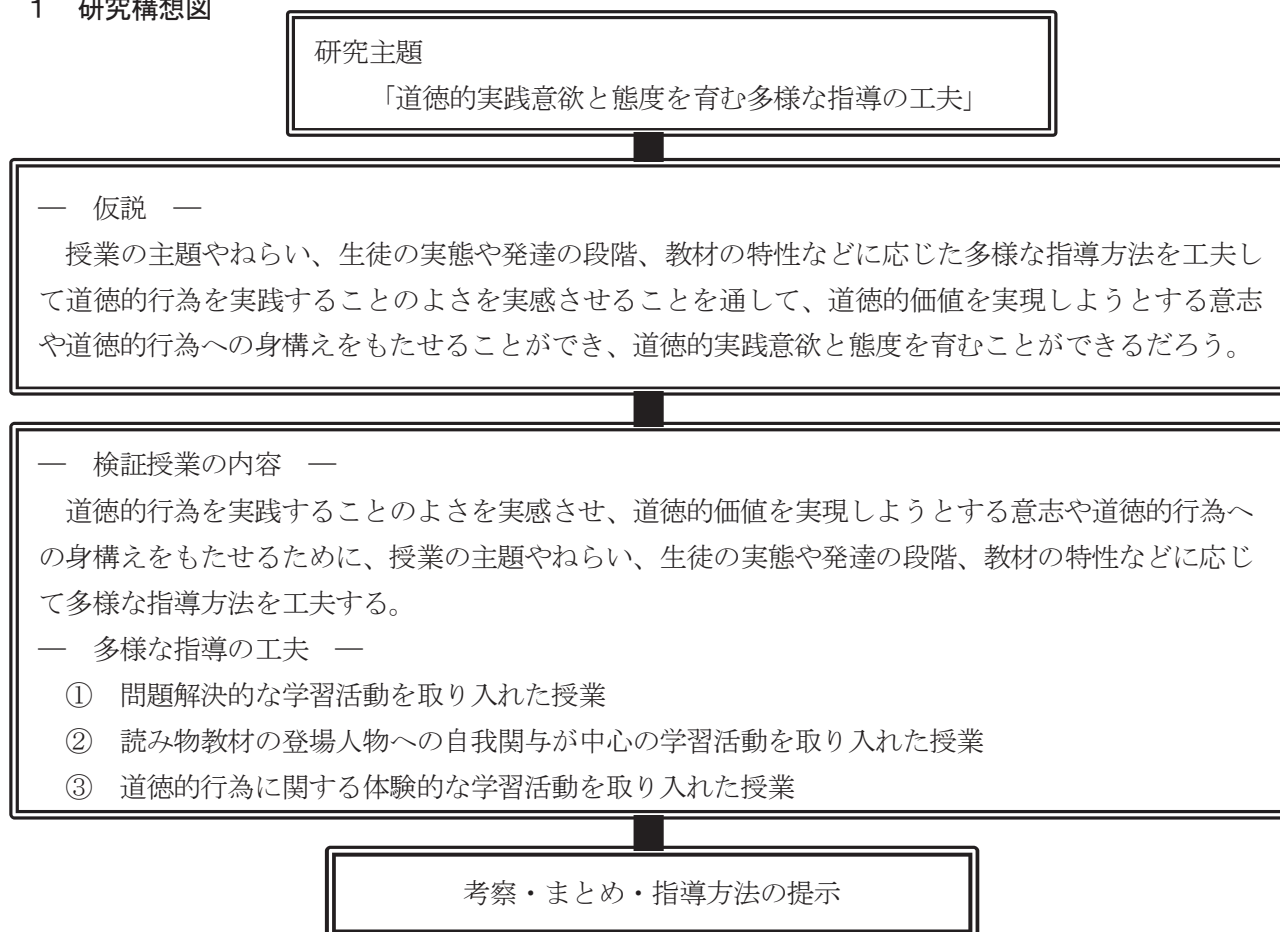


¹⁰ 『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて（報告）』 p. 7

¹¹ 『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて（報告）』 p. 19～p. 20

IV 研究の方法

1 研究構想図



2 仮説の検証

仮説に則り、以下のように検証授業を行い、道徳的実践意欲と態度の育成について生徒の変容や成長を図り、仮説の検証を行う。

- 第1学年 内容項目 節度、節制（A 主として自分自身に関すること）
教材名 「ある朝のできごと」
（『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集より）
指導の工夫 ねらいと教材の特性に応じて、問題解決的な学習活動を取り入れる。
- 第2学年 内容項目 よりよい学校生活、集団生活の充実
（C 主として集団や社会との関わりに関すること）
教材名 『一員』というプライド
（『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集より）
指導の工夫 教材の特性と生徒の発達の段階に応じて、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習活動を取り入れる。
- 第3学年 内容項目 思いやり、感謝（B 主として人との関わりに関すること）
教材名 「思いやりとは……」
（『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集より）
指導の工夫 ねらいと生徒の実態や発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習活動を取り入れる。

V 研究の内容

<指導例1：第1学年>

- 1 主題名 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。 (内容項目A「節度、節制」)
- 2 教材名 「ある朝のできごと」(『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集)
- 3 本時のねらい

問題解決的な学習活動を通して節度を守り節制に心掛けることのよさを実感させ、安全に配慮して生活するための判断力を高めさせるとともに、一人一人が生きていく上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決していくために必要な道徳的実践意欲と態度を育む。

4 指導観

(1) ねらいとする道徳的価値について

「特別の教科 道徳」の内容項目では、「……節度を守り、節制に心掛け、安全で調和のある生活をする」(傍点は研究員)と、従来の「節度、節制」にあたる内容に新たに「安全で」の文言が加わった。これは、節度を守らないことや節制を心掛けないことにより危険な状況に直面することもあるということを示唆している。己の欲望や衝動の赴くままに行動することが、自分や他者を危険に巻き込むこともあるということである。

本検証授業では、この節度・節制と安全な生活とのつながりを重視した。ともすると生徒指導や生活規律の指導に傾いてしまいがちな内容項目を、人として生きていく上で直面する様々な問題や課題を主体的に解決していくために必要な道徳性として明確に指導することがねらいである。

(2) 生徒の発達段階について

第1学年の時期は、小学生のときと比べ、交友関係や行動の範囲が大きく広がる。それに伴い生活のリズムを崩したり、不摂生な生活を送ったりしている生徒も少なくない。また、まだ精神的な幼さも残しているため、自らを律することができず自己の欲望や衝動のままに行動してしまう場面も見られる。

「節度を守る」、「節制に心掛ける」というと、生徒は我慢をしたり控えめにしたりすることといった負のイメージを連想することが多いと思われる。節度を守り節制に心掛けることのよさを実感させることで、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康を増進し、安全で調和のある生活を送っていかうとする実践意欲と態度を育てたい。

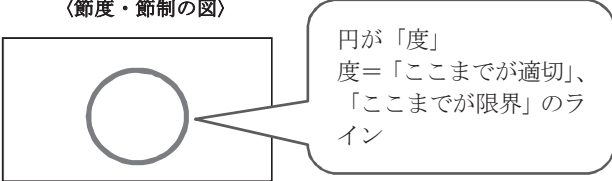
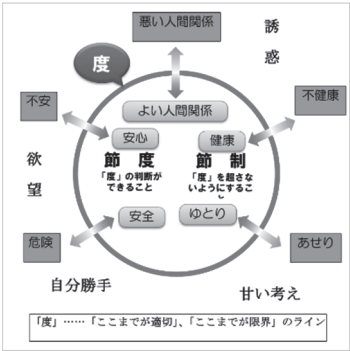
(3) 教材の特徴について

「ある朝のできごと」は、スマートフォンの使用が基で、生活が乱れたりけがをってしまったりする中学生の様子を描いた読み物教材と、東京消防庁がまとめた「歩きスマホ等による事故の事例」といわゆる「ながらスマホ」についての意識調査の結果を掲載する複合的な教材である。

読み物教材は、生徒にとって身近な事例を扱っており、節度を守り節制を心掛けることの大切さについて理解を深めることのできる教材である。また、事例や意識調査の結果は、節度を守り節制を心掛けることの難しさや、それらと安全な生活とのつながりについて、深く考えることのできる教材である。ねらいとする道徳的価値について多面的・多角的に捉えさせたり、中心となる活動への導入として活用したりすることが可能である。

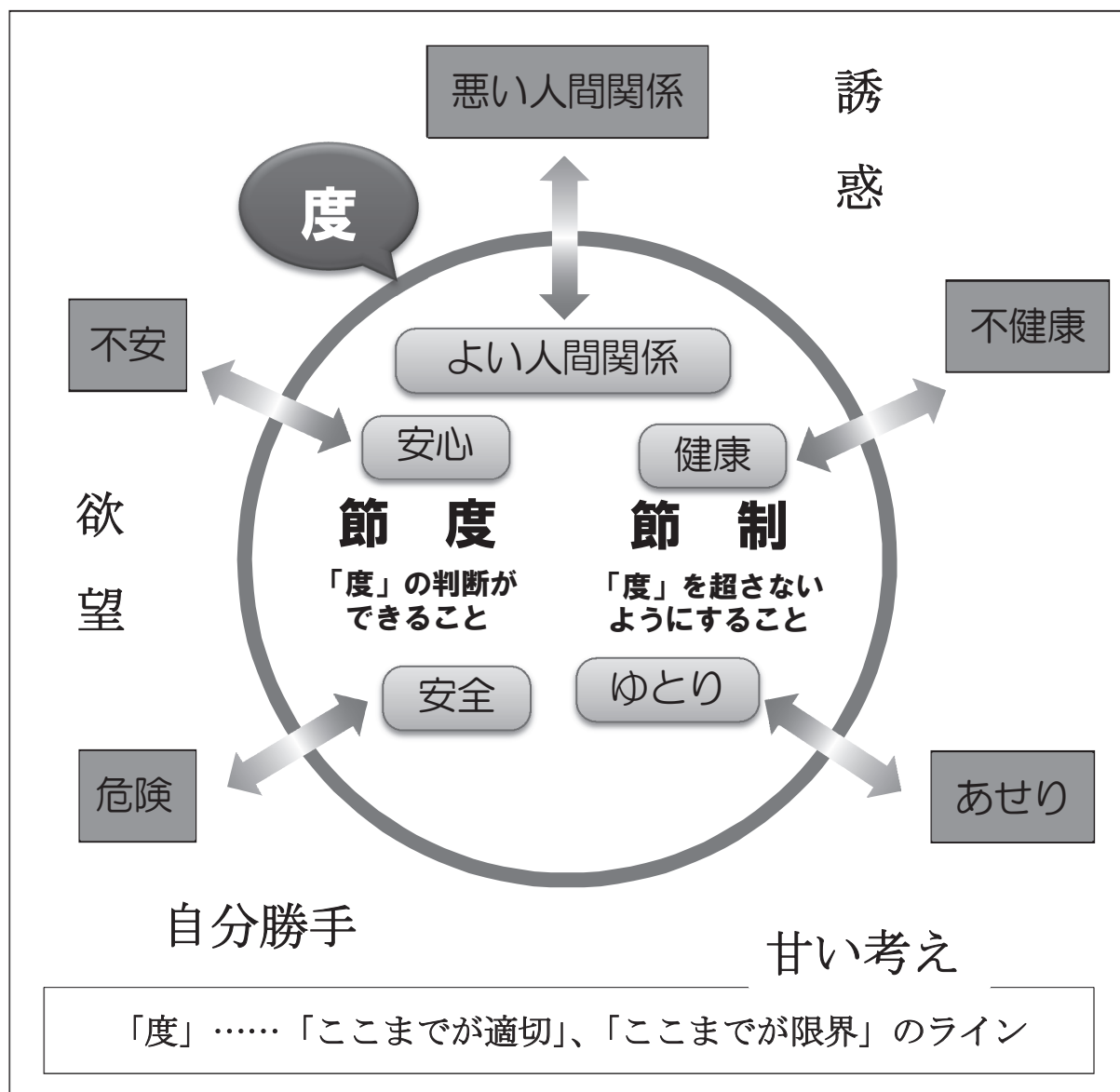
本検証授業では、問題解決的な学習活動を授業の中心に据え、その活動がより効果的なものとなるよう、教材の読み物教材部分を活用する。教材を通して、生徒一人一人に、「節度を守り節制を心掛け、安全で調和のある生活をする」ことのよさに気付かせたい。

5 本時の活動

	主な学習活動(○発問◎中心発問・予想される生徒の反応)	指導上の留意点
導入	<p>○ 普段から、「節度」を守っていますか。「節制」を心掛けていますか。</p> <p>〈節度・節制の図〉</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 節度や節制という言葉を知らない生徒がいることも予想される。「度が過ぎる」、「度を越える」といった例を示して「度」についてのイメージをもたせた上で、 「節度」＝「度」の判断ができること 「節制」＝「度」を越さないようにすること <p>として、学習目標を意識させるために掲示しておく。</p>
展開	<p style="text-align: center;">問題解決的な学習活動 1</p> <p>○ 奈美恵が車で階段を踏み外してしまわないために、あなたは「誰に」、「どのようなアドバイス」をしますか。</p> <p>「奈美恵」に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> 階段を踏み外してケガをしないように、ながらスマホはやめよう。 朝慌てないように、夜遅くまでスマホを使うのをやめて早く寝よう。 自分や家族(弟)がケガをしないように、家族で決めたルールに従ってスマホを使おう。 <p>「友人」に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈美恵がケガをしないように、スマホで急がせたり、夜遅くまで付き合わせたりするのをやめよう。 <p>○ このできごとを、「節度、節制」の視点から捉えてみましょう。</p>  <p style="text-align: center;">道徳的価値のよさに気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師が「ある朝のできごと」を判読する。 生徒を指名し、発問についての考えを発表させる。共感したり参考になったりした意見について、ワークシートAに記入させる。 どうしてこのような事故が起こったのか遡って考えさせることで、奈美恵の生活全般や奈美恵以外の人物の行動にも着目させ、多角的に考えさせるようにする。 〈節度・節制の図〉を用いて、どのような「度」をどのように守っていれば、事故を防げたのかを考えさせる。 「度」を越えずにいることで、どのような状況・状態が保たれるのかを捉えさせるようにする。
	<p style="text-align: center;">問題解決的な学習活動 2</p> <p>◎ 自分の日常を振り返ってみたとき、節度を守れていなかったり、節制に心掛けることができていなかったりすることは何でしょうか。また、そんな自分にどのようなアドバイスをしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己の振り返りと自分へのアドバイスをワークシートAに記入させる。 あらかじめ、無理に発表はさせないことを伝えることで、自分自身について深く考えさせるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 節度を守り節制に心掛けることの「よさ」を意識させながら、できるだけ具体的なアドバイスを書くよう補足する。 ・ 机間巡視中に学級で共有したい意見を数点確認しておく。 ・ ワークシートAを回収し、机間巡視中に確認した意見を匿名で発表し、学級内で共有させる。その際、内容から生徒が特定されないよう配慮する。
終末	○ 今日の授業を振り返ってみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートBを配布し、「本時の感想」と「自己評価」を記入させる。 ・ 「本時の感想」については、授業中での自己の内面の変化や、今後の生活への展望などを書くよう補足する。

〈節度・節制の図〉



6 指導の実際

実際の活動

【「よさ」に気付かせ、道徳的実践意欲と態度を育む】

「階段を降りるときはスマートフォンをいじらない」で終わらず、節度を守り節制に心掛けて生活する観点から、事故の原因が多岐にわたっていることや、他の人物に対しても、「慌てさせない」、「遅くまで付き合わせない」といった、相手の状況を考えた行動を意識することの大切さに着目させるようにした。「～しないために～しよう」というアドバイスを考えさせることで、節度を守り節制に心掛けることで得られる「よさ」について、多面的・多角的に考えさせるようにした。

T：奈美恵が駅で階段を踏み外してしまわないために、あなただったら「誰に」、「どのようなアドバイス」をしますか？ 「～しないために、～しよう」という形で理由を明確にしてアドバイスしましょう。

<奈美恵に対して>

S 1：ケガをしないために、友達への返信は立ち止まって、迷惑のかからない場所でしょう。

S 2：寝坊しないために、夜遅くまでスマホでやりとりをしないで早く寝よう。

<友人に対して>

S 3：奈美恵が慌てて転んだり事故にあったりしないために、スマホで急がせるのはやめよう。

S 4：全員で寝不足にならないために、適度な時間でスマホのやりとりを切り上げよう。

【多様な指導方法を工夫する —問題解決的な学習活動—】

生徒一人一人が直面している、あるいは今後生きる上で出会う様々な「節度、節制」に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うために、問題解決的な学習活動を設定した。その際、「自分だったらどうするか」と自分の問題として捉えさせたり、節度を守り節制を心掛けることよさを意識しながら課題に取り組みせたりするようにし、道徳的実践意欲と態度を育めるようにした。

T：①自分の日常を振り返ってみたとき、節度を守れていなかったり、節制に心掛けることができていなかったりすることは何でしょうか。

②そんな自分にどのようなアドバイスをしますか。

S 1：①朝目が覚めても、もう少しもう少しとだらだらとふとんの中に居続けてしまう。

②心に余裕をもって登校できるようになるから、朝早く起きて準備をしよう。

S 2：①ゲームを毎日3時間以上やってしまう。

②目を休めた分、視力が回復するから、1時間までにしておこう。

S 3：①周りのことを考えないで、皆を巻き込むようなふざけた発言をしてしまう。

②ほどほどにしておけば皆が「楽しかった、面白かった」と思ってくれて終わることができるから、余計な発言や行動をしないように気を付けて行動しよう。

S 4：①暴飲暴食で上半身の体重が重くなり椎間板ヘルニアになりかけていて、水泳人生が危うい状況である。(水泳のジュニアオリンピック代表の生徒：自ら挙手で発表)

②東京オリンピックで金メダルをとるために、しっかりと食事コントロールをして体を大切にしていこう。

<授業後の生徒の感想（抜粋）>

- 分かっていてもなかなかやめられないことはよくあるけれど、「節度・節制」を実行していくことによって、自分によいことは必ずあると分かりました。少しでも「もうそろそろやめたほうがいいかな」と思ったら、やめられるように努力をしようと思います。
- 時間を気にしながら行動する必要があると思いました。寝る時間、課題にかかる時間、集合時間、睡眠時間など。「時間には限りがある」ことを自覚して、いつでもできること（スマホなど）を控え、「今やるべきこと」を大事にしていきたいと思います。
- 自分のルールをしっかり決めて行動（節度・節制）していくと、自分によいことがあるし、周りの人たちに迷惑をかけずに気持ちよく毎日を過ごしていけると思いました。また、自分と周りの人との関わり合いを意識しながら生活していくとさらによいと思えました。
- 自分の度を超した行動によって、他人にも迷惑をかけてしまうことを学びました。何かをするときには、必ず「度」を確かめてやっつけようと思います。

<ワークシート>

Q1、
○節度を越えやっちゃってしまっていること（自分の課題）
誰に
くしないためにしよう

Q2、
○節度を越えやっちゃってしまっていること（自分の課題）

①、自分自身へのアドバイス ※長さに合わせて行動できるように！

②、

「度」……「ここまでが適切」、「ここまでが限界」のライン

道徳ワークシートA「節度・節制」

年 組 番

ワークシートA（A4版）
生徒が自分自身について考える際の助けとなるように、「節度・節制の図」をワークシートにも載せた。

道徳ワークシートB「節度・節制」 年 組 番

本時の感想

「節度、節制」という言葉は、初めて聞きました。しほけはばならな
いことを頭で理解していても、できていないことがよくあります。「少し
らい…」と考えがちですが、その「少し」を続けていたら生活に良くない
影響があるということも考えて行動しようと思、います。夜更かしを少しでも
改善します!!

本時の自己評価	とても ←	→ あまり
①今日の授業では深く考えることができましたか。	4	3 2 1
②共感したり感動したりする場面はありましたか。	4	3 2 1
③自分自身を振り返ることができましたか。	4	3 2 1
④新たな発見はありましたか。	4	3 2 1
⑤今日の授業の教材はためになりましたか。	4	3 2 1

ワークシートB（A5版）
短時間で振り返りと自己評価をまとめられるようA5版一枚にした。ワークシートは教師が確認した後、生徒がファイルで保管する。

7 成果と課題

【「よさ」に気付かせ、道徳的实践意欲と態度を育む】

(1) 成果

- ・ 「節度、節制」についての理解を深められるように、「節度・節制の図」を用いて感覚的に捉えられるよう工夫をした。この工夫により、円の外側に書かれた事項（例：不健康）が自分の欲望を抑えることができずに「度」を超えてしまった結果であることや、節度を守り節制に心掛け「度」の内側にとどまることによって自分にとってのよさ（例：健康）が手に入るということについて、全ての生徒に理解させることができた。
- ・ 教材についての発問で、「～しないために、～しよう」という形でアドバイスを考えさせたことで、行動とその結果との因果関係について、生徒に深く考えさせることができた。また、これを反対にすると「～すれば、～になる」となることから、節度を守り節制を心掛けることにより、どのような「よさ」が生じるのかについて捉えることができ、中心発問についてより深く考えさせることができた。

(2) 課題

- ・ 生徒一人一人が生きる上で出会う様々な「節度、節制」に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を育むことを授業のねらいとした。しかし、教材に取り上げられていた「ながらスマホ」から離れることができず、自分自身について考える場面においても、スマートフォンの使い方や、SNSとの関わり方に終始してしまっている生徒もいた。より広い視点から自分を見つめ直させる補助発問や助言が必要であった。

【多様な指導方法を工夫する ―問題解決的な学習活動―】

(1) 成果

- ・ 教材についてと自分自身について、二段階で問題解決的な学習活動を取り入れた。この工夫によって、道徳的な問題について、なぜそれが問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのように考え、どのように行動すればよいのかについて多面的・多角的に考えさせることができた。
- ・ 中心発問で自己を振り返り自分自身について考えさせる場面で、あらかじめ、指名するなどして無理に発表させることはしないと伝えた。問題解決的な学習活動においては、グループで話し合うなど協働的な学習が効果的である。しかし、「節度、節制」という観点から自己を振り返る行為は個人的な要素が強く、発表や交流を前提とすると生徒が深い部分まで見つめることができなくなる。そこで、自己との対話という方法でじっくりと内省させることを重視した。その結果、生徒一人一人が、自分の日常生活やその先にある社会生活についてより深くより具体的に考えることができていた。

(2) 課題

- ・ 提出させたワークシートを検証すると、「朝起きられないので、早く寝る」というように、一つの「できていない行動」に対して一つの「そうでない（あるべき）行動」を挙げているという生徒もいた。自分の課題は把握しているが、誘惑や欲望に負けないために自分の中の何をどのように変えたり整えたりしていくべきかまで深く探求することができなかつたと言える。1年生には、まだ自己の内面を客観的に見つめることができない生徒も少なくない。その点を踏まえ、自分が置かれている場面や状況に応じて、「度」を適切に判断し、「度」の内にとどまろうとする実践意欲と態度を育むための指導の継続と指導方法のさらなる工夫が必要である。

<指導例2：第2学年>

1 主題名 学級や学校の一員としての自覚をもち、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。(内容項目C「よりよい学校生活、集団生活の充実」)

2 教材名 『一員』というプライド(『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集)

3 本時のねらい

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習活動を通して、集団の中での自分の役割と責任を果たすことのよさを実感させ、集団の意義を理解し集団生活の充実に努めていこうとする道徳的实践意欲と態度を育む。

4 指導観について

(1) ねらいとする道徳的価値について

「特別の教科 道徳」の内容項目では、従来の集団生活の関わるものと、学校生活に関わるものが一つに統合された。これは内容項目を整理する意図もあるが、学校生活の中において、より積極的に様々な集団の意義について考えたり、集団の一員としての役割や責任を自覚したりしていくことが大切であると言うこともできる。

学校は、生徒にとって生活の大半を過ごす大切な場所である。そして、学校の中には、目的やメンバーの異なる様々な集団が存在する。生徒一人一人に、自分が様々な集団に属していること、その一員として果たすべき役割や責任があることへの自覚を深めさせ、主体的にそれを果たしていこうとする道徳的实践意欲と態度を養うことが、本検証授業のねらいである。

(2) 生徒の発達段階について

第2学年の時期は、部活動や委員会活動などにおいて中心的な役割を担うようになってきたり、学校行事等に学級で一丸となって取り組んでいこうとする思いが強くなったりする生徒が多くなってくる。一方で、自分が属する集団にばかり関心が向かい、自分とは関わりが弱いと思われる集団やそのメンバーに対して排他的な言動をとるような場面も見られる。

よりよい学校生活を送り、集団生活を充実させることは、自分自身を大きく成長させることにつながり、また、自他が相互に豊かになっていく基盤ともなる。本検証授業では、そのことを自覚させ、様々な集団の意義について深く考えさせるとともに、その中で自分はどういう役割をもち、どのように責任を果たしていくのかについて、主体的に捉えさせる。集団の一員としての自分を積極的に育てていこうとする実践意欲と態度を育てたい。

(3) 教材の特徴について

『一員』としての「プライド」は、サッカー部でレギュラーになれずに落ち込んでいた男子生徒がある試合での出来事をきっかけに自分の役割に気付くという読み物と、合唱コンクールを前にクラスがまとまらないことで悩む実行委員の女子生徒とそんな女子生徒を見て行動を起こす男子生徒の二人の姿を描いた読み物の、二つの読み物教材で構成されている。部活動と合唱コンクールという、生徒にとって身近な場面を取り上げており、また、それぞれの教材の登場人物が直面する問題も、多くの生徒が共感的に捉えることができるものである。どちらも短い教材であり、一つずつ扱うことも、二つを段階的に扱うことも可能である。

本検証授業では、教材の特徴を生かし、登場人物への自我関与が中心の学習活動を取り入れた。登場人物について深く考えさせることを通して自己の内面を見つめさせるとともに、自分が役割や責任を果たすことで集団が向上したり集団生活が充実したりすることのよさに気付かせたい。

5 本時の活動

	主な学習活動 (○発問◎中心発問・予想される生徒の反応)	指導上の留意点
導入	○ あなたは今、どのような集団に所属していますか？ ・ 学校、学級、部活動、委員会など。	・ 自分が様々な集団に属していることを確認させる。
展開	<p style="text-align: center;">登場人物への自我関与が中心の学習活動 1</p> <p>○ 「チームのために恥ずかしくない自分」とは、どのような「自分」でしょうか。なぜ「僕」は、そのような自分になりたいと思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームのために自分にできることをやる自分 ・ チーム全体のための自分の仕事をもつ自分 ・ 後輩にチームワークのよさを伝えられる自分 ・ 責任もって活動する自分 <p>～・・・～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームの中で、自分にもできること、やれることがあることに気付いたから。 ・ レギュラーでなくても3年生として自分がチームの役に立てることが分かったから。 <p style="text-align: center;">道徳的価値のよさに気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート1 (教材①サッカー一部のエピソード) を配布し、教師が判読する。 ・ 発問に対する考えを、ワークシート1に記入させる。 ・ 自分の役割を果たせたことでチームの一員としての自覚を新たにし、再び頑張ろうと思う「僕」の心の変化に着目させる。 ・ チームの一員として自分にできることを考えさせる中で、自分に置き換えさせ自分のこととして考えさせる。 ・ 数名の生徒を指名して発表させ、学級全体で共有させる。
	<p style="text-align: center;">登場人物への自我関与が中心の学習活動 2</p> <p>○ このあと「私」または「明彦」はどうするでしょうか。自分の考えをまとめてから、グループで話し合ってみよう。</p> <p>* グループごとに話し合いの成果を発表し、さらに考えを深める。</p> <p style="text-align: center;">道徳的価値のよさに気付く</p> <p>○ この教材の後半を読んで、考えたことや感じたことを整理しよう。</p> <p>◎ あなたは、これから、集団の一員としてどのような自分でありたいと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート2 (教材②合唱コンクールのエピソードの前半部) を配布し、教師が判読する。 ・ 「私」か「明彦」どちらかを選び、この後どうすると考えるか、そう考えた理由と併せてワークシート2に記入させる。 ・ 個人の考えをまとめさせた後、4人一組のグループで互いの考えを交流させ、考えを深めさせる。 ・ ワークシート3 (教材③合唱コンクールのエピソードの後半部) を配布し、教師が判読する。 ・ 一例として教材の後半部を読ませ、発問についてより多角的に捉えさせる。 ・ 発問に対する考えを、ワークシート3に記入させる。 ・ 発問に対する考えを、ワークシート

		<p>3に記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材①～③で考えたことを振り返らせながら、自分の属する集団の向上と自分の役割や責任について考えを深めさせる。
終末	○ 今日の授業を振り返ってみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート3の自己評価欄に記入させる。 最後に教師がワークシート3の「メッセージ」を読み、「一員のプライド」について考えさせ、授業を終える。

〈ワークシート〉

ワークシート（A4版）

教材の裏面にワークシートを印刷し、教材に着目するとき、自分の考えをまとめるときとでそれぞれに集中できるようにした。

ワークシート1

「一員」というプライド

質問1 「チームのために恥ずかしくない自分とはどういうことだろう」

考えたことを記入する。他の人の意見をメモする。

年 組 番 名

ワークシート2

「一員」というプライド

質問2 「このあと はどうするか」

※明彦が私のどちらかを1に書き、その立場にたって考える。
※余裕があればもう片方の立場も考える。

班の人の考え

※他の人の意見をメモする。

年 組

ワークシート3

「一員」というプライド

質問3 「今後あなたは、集団の一員としてどんな自分でありたいですか」

今日の感想とともに書きなさい。

1 道徳の授業に積極的に臨めましたか。	4	3	2	1
2 自分の考えを伝えることができましたか。	4	3	2	1
3 友達の考えを聞くことができましたか。	4	3	2	1
4 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで、自分の考えを深めることができましたか。	4	3	2	1

4 意欲的でした 3 できた
2 あまりできなかった 1 できなかった

君が「一員」であることの意味を見いだすのは、君自身だ、それは、君が君であることのプライドになるはずだ。

年 組 番 名前

ワークシート2・3

教材を二つの場面に分けて配布し、段階的に捉えさせることで、生徒の考えが深まるよう工夫した。

合唱コンクールは、私たちの学校がとても大切にしている行事だ。一年生も三年生も関係ない。全てのクラスに優勝の可能性があつて、だから、全てのクラスがライバルだ。当然、私たち二年生にも優勝のチャンスはある。なのに……」

練習が始まって一週間。クラス代表の実行委員の私は、正直、うんざりしていた。練習に真面目に参加しない男子たち。そんな男子たちに文句を言う女子たち。では女子は真剣に取り組んでいるかという点、パート練習の時など、おしやべりをしている時間のほうが圧倒的に長い。これは、去年と全く変わらない光景が繰り返されているだけではないか。私は、アルトのパート・リーダーとして、パート練習の時にはメンバーにしつかり練習に参加するよう何度も声をかけた。しかし、

「だって男子も全然練習してないし。」

「あんなんじや、こつちだつてやる気出ないよね。」

男子のパート・リーダーにも、真面目に練習に取り組みように声をかけた。しかし、

「真面目にやつてるよ。なあ？」

「そっか。誤解だよ、誤解。」

そう言つて大声で笑い出す。やっぱり、去年の繰り返しだ。

『心をひとつに 響けハーモニ』

教室の壁に貼られた今年の合唱コンクールのスローガンが、とてもむなしなものに見えた。

放課後、私は誰もいない教室に、一人残っていた。今日の練習もやっぱりうまくいかなかった。いろいろなことが、もうどうでもいふように思えた。

そこへ、部活動を終えた明彦がやつてきた。「どうしたの？」と声をかけてきた明彦に、私は、自分の中にあつたいろいろな思いを一つづつ話した。ずいぶん長い時間、私は話し続けた。いつもはふざけてばかりの明彦だったが、その時は黙つて聞いてくれた。私が話し終えると、

「まあ、みんな同じじゃないからな。それが分かっているから、『心をひとつに』なんだろうな。」

壁のスローガンを見ながら、そう言つて、明彦は帰つていった。

翌日の練習の時。

パート練習を終え、全体で合わせるために私たちが教室に戻つてくると、男子が全員、合唱隊形に整列していた。あ然としながら、私たちが隊形を整える。指揮者が構え、伴奏が始まり、そして……

男子はこれまで聞いたことのない大きな声で歌つた。時々音程がずれていたり、ところどころ歌詞をまちがえていたりしたが、誰一人ふざけたり笑つたりせず、最後まで歌いきった。（こんな力強い声が出るなんて……）その歌声は、一年生の時とは明らかに違つていた。

「すごい。びっくりました。」

「上手だったよね。」

「かっこいい。」

女子が口々にそう言つと、男子たちは少し恥ずかしそうな顔を見せた。

「やる時はやります！」

後ろのほうから声がした。明彦だ。このサブライズの仕掛け人も明彦に違いない。

「でも、途中、音程ずれてたけどね。」

誰かがそう言つと、教室が笑いに包まれた。

「女子もがんばろうよ。」

「負けてられないよね。」

勝ち負けの問題じゃないだろという男子の声を貸すことなく、女子がもう一度隊形を整え始めた。

「ほら、真紀も、早く。」

「ぼんと肩をたたかれる。」

「真紀が隣で歌ってくれないと、私たちがまだ音が取れないんだから。」

「今頃何言つてるのよ。全体練習終わつたら特訓よ。」

わざと怖い顔をつくつてそう言つてから、私も自分の位置に立つ。指揮者が構える。きんつと教室の空気が硬くなったような気がした。

『心をひとつに 響けハーモニ』

壁のスローガンが、さつきまでとは違つて見えた。

（『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集』 p.58～p.59）

6 指導の実際

実際の活動

【多様な指導方法を工夫する —登場人物への自我関与が中心の学習活動—】

サッカー部の生徒が部内での自己の役割を見いだす教材を読んだ後に、合唱コンクールに向けてクラスをまとめられず悩む女子生徒とその悩みを知った男子生徒の交流を描いた教材を取り上げた。二つめの教材は前半と後半とで分け、二人がどのように行動していったかを明らかにせずに考えさせることで、人物に自己を投影させながら考えを深めていけるよう工夫した。

T：「明彦」と「私」はこの後どうするでしょうか。どちらかを選んで、この後どうするかをそれぞれの立場になって考えよう。

<明彦>

S1：次の練習からまず自分が真剣にやり、ふざけている人を見つけたら注意する。

（「私」の気持ちが明彦に届いて、明彦の心を動かしたから。）

S2：まず男子に「私」が悩んでいることを伝え、男子が真剣に取り組むように雰囲気をつくる。

（男子が真剣になったら女子もつられて一生懸命取り組むと思うから）

S3：クラスみんなに私の大変さを伝える。その後、クラス全体でスローガンの「心をひとつに」について話し合う。

<私>

S4：注意するのではなく、どうしたいのか、どうしてほしいのかをクラスみんなに伝える。

S5：クラスの悪いところだけを言うのではなく、よいところに見てほめていくようにする。

S6：どんな合唱にしたいのか、一人一人の意見を寄せ書きにして掲示する。

（一人一人の思いを目に見える形で一つにすることができるから。）

【「よさ」に気付かせ、道徳的実践意欲と態度を育む】

自我関与が中心の学習活動に取り組む中で、集団の一員として自己の役割や責任を果たすことがどのような「よさ」につながるかについて理解を深めさせた上で、自己を見つめ直させ、自分の属する集団や、そこで自分の役割や責任を果たすことについて、その先の「よさ」をイメージさせながら考えさせるよう工夫した。

T：あなたは、これから、集団の一員としてどのような自分でありたいと思いますか？

S 1：常にみんなのことを考え、支えられるよう行動していきたい。また、自分は言葉ではつきりと伝えるのが苦手なので、まず行動で役に立てるようにしたい。

S 2：どのような集団であれ、自分自身が集団に貢献するという気持ちをもって一つ一つのことに取り組む。

S 3：リーダーとしてみんなを引っ張ることはできないかもしれないが、「その時その時で、自分にできることを100パーセントの力でやる。そしてやり続ける。」そんな自分でありたい。

S 4：前に立って頑張っている人に協力する。「自分はこの集団の一員なんだ」という自覚をもって、その集団の中で恥ずかしくない行動をとるようにする。

S 5：自分にできることに自分が全力で取り組むことが、自分だけでなく、周りの人や集団全体に広がっていくことを意識する。自分の目標も大切だが、集団全体の目標も大切にする。

S 6：いろいろな集団が自分を支えてくれたり成長させてくれたりすることを忘れないようにする。自分が頑張ることは、集団への恩返しでもある。

<授業後の生徒の感想（抜粋）>

- ・ 一員であることのプライドに関して、これまで深く考えたことがなかったが、今回の授業で考えることができた。自分の経験などと重なって共感するところが多かった。
- ・ これからの自分の行動を考え直すことができてよかった。チームをいろいろなことで支えていけるように頑張ろうと思った。
- ・ どんな集団でも、そこで自分が自分にできることをしっかりとやるから、信頼されたり、頼られたりするのだと思った。
- ・ どの話（注：教材のこと）も自分に起こりそうな内容だったので、自分だったらどうするか深く考えることができた。
- ・ あらためて集団の一員として自分はどのように行動していけばいいのか、深く考えることができた。今までの自分を振り返ることができたのでよかった。
- ・ 集団の一員である限り、仲間を思いやり助け合うことが大切だということを学んだ。一員として仲間を思いやり助け合っていくことが、「プライド」になっていくのだと気付いた。
- ・ あらためて自分がいる集団での自分の位置を考えることができた。また、これから自分がどうするべきか、どうしていかなければいけないのかを考えた。
- ・ 一人一人の意見が違って、他の人の考えからたくさんを学べた。一人で全部やろうとするのではなく、頼って話してみるのもいいと思った。
- ・ 自分がどんな一員なのかを振り返ることができた。どんな一員になりたいのかも考える機会だったので、自分が目指す一員になれるように頑張りたい。
- ・ みんなで団結して何かを成すことも「責任を果たすこと」になるのではないかと、今日の授業で感じた。

7 成果と課題

【多様な指導方法を工夫する ―登場人物への自我関与を中心とした学習活動― 】

(1) 成果

- ・ 教材の登場人物の心情や判断に自分自身を投影させて考えさせるよう発問を工夫したことで、自分との関わりから、集団の意義や自分の役割・責任について考えを深めさせることができた。また、教材が、学校生活のある場面を取り上げた、生徒に身近な内容ということもあり、今後自分にも起こりうるであろうこととして生徒に考えさせることができた。
- ・ 二つめのエピソード（合唱コンクール）については、教材を前半部と後半部に分けて提示した。この工夫によって、結果が分かっているところから役割や責任、「よさ」について考えるのではなく、この後、自分が「明彦」だったら、自分が「私」だったら、と、一人一人に真剣に考えさせることができ、効果的な自我関与が中心の学習活動を展開することができた。また、考えたことについてグループ内で交流をさせたことで、自己の役割や責任の捉え方やその果たし方について、多面的・多角的に考えさせることができた。

(2) 課題

- ・ 自己の役割や責任を自覚し、それを果たしていくことの大切さについては、多くの生徒が理解し、また、考えることができていたが、それが集団をどのように向上させていくかという点についてまで、イメージをもていない生徒もいた。集団における自分の在り方を、その集団の向上や充実と結び付けさせながら捉えさせていくことが重要である。

【「よさ」に気付かせ、道徳的实践意欲と態度を育む】

(1) 成果

- ・ 授業後の生徒の感想に多く見られるように、生徒の多くが、これまで「集団の一員としての自分」について考えることがあまりなかったと感じており、教材の特性と相まって自己の学校生活を見つめ直させるよい機会となった。学校生活が様々な集団による様々な活動の複合によって成り立っていること、自分が様々な集団に所属しそれぞれの集団によって果たすべき役割や責任が異なっていることなどについて、二つの教材から自分自身へという授業展開で深く理解させることができた。生徒は学校生活を充実させたいと考えている。そのためにもどのように考え、判断し、行動していけばよいのかを一人一人に考えさせることができたとともに、そんな自分であろうとする意欲を引き出すことができた。

(2) 課題

- ・ 教材が部活動と学校行事を扱った、生徒に身近な題材であったため、生徒が自分の学校生活に結び付けて考えることができたが、学校生活での取組にのみ関心が向いてしまっている生徒もいた。学校以外の場にもそれぞれが属する集団があり、そこにも果たすべき役割や責任があることにも着目させるよう発問を工夫する必要がある。

本検証授業では、対象が第2学年であり、学校の中核となっていく存在であることを意識させるようにしたが、例えば対象が第3学年であれば、今後どのような集団に所属していくことになるのか、そこではどのような役割や責任が求められるのかといったように、自己の将来へと目を向けさせ、人間としての在り方や生き方と関連させながら考えさせることが重要である。

<指導例3：第3学年>

1 主題名 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。(内容項目B「思いやり、感謝」)

2 教材名 「思いやりとは……」(『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集)

3 本時のねらい

道徳的行為に関する体験的な学習活動を通して、思いやりの心をもって人と接することのよさを実感させ、人々の善意に感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神をもって生きていこうとする実践意欲と態度を育む。

4 指導観

(1) ねらいとする道徳的価値について

「特別の教科 道徳」の内容項目では、従来の「思いやり」に関するものと「感謝」に関するものが一つに統合された。また、「家族などの支えや」と自分を支えてくれる人々のうちの大きな存在が「家族」であることを示した。思いやりと感謝の内容を一つに統合したのは、内容項目を整理する意図もあるが、周囲の人々を思いやることの根底には、自分もまた思いやりを受け取っていることの自覚や、そのことへの感謝があり、両者が表裏のものであることも示している。

本検証授業では、このことを踏まえ、思いやる側と思いやりを受け取る側、それぞれの立場から、人を思いやることのよさについて実感させることをねらいとした。また、同じ状況であったとしても思いやりの示し方には様々な形があることや、人によって思いやりの捉え方が異なることなどについても気付かせ、思いやりについて多面的・多角的に捉えることができるようにさせたい。

(2) 生徒の発達段階について

第3学年の時期は、内面的にも成長し、社会生活の中で自分がどのように判断したり行動したりすべきかということについて、道徳性を基準として考えることができるようになってくる。一方で、それを実際に行動に移すことができずに悩んだり、自分の意志を貫徹せず集団や他者に流されてしまったりする生徒も見られる。

思いやりの心をもって人に接することの大切さは、生徒の誰もが理解している。しかし、思いやりの心をもって人に接することができていると自認できる生徒は多くはない。この溝を埋めていくことは、自分と周囲との関係を良好にするだけでなく、自尊感情や自己有用感を育むことにもつながる。

本検証授業においては、このことを重視し、道徳的行為に関する体験的な学習活動を授業の中心に据えた。疑似的な体験を通して思いやりの心をもって人に接することのよさを実感させるとともに、これから出会うであろう様々な場面においても人を思いやっいていこうとする実践意欲と態度を育てたい。

(3) 教材の特徴について

「思いやりとは……」は、6人の子供の満員電車におけるそれぞれ異なる心理や行動を示し、思いやりとは何かということについて考えることのできる教材である。また、思いやりのある行動を推奨する広告や、外国人が見た東日本大震災の際の日本の人々の姿についての記事なども併せて掲載し、多面的・多角的に思いやりや感謝について考えさせることができる。

本検証授業では、中心となる活動をより効果的にするための前段として読み物部分を活用した。

5 本時の学習活動

	主な学習活動(○発問◎中心発問・予想される生徒の反応)	指導上の留意点
導入	<p>○ 6人の子供のうち、思いやりがあるのは誰でしょうか。思いやりがないのは誰でしょうか。 (例：4人めの子供について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 席を譲らなかったで、思いやりがない。 席は譲らなかったが、譲ろうとする気持ちはあったので、思いやりがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「思いやりとは…」を教師が範読する。 6人の子供について、思いやりがあると言えるかどうかを考えさせる。 それぞれ数名の生徒を指名して発言させる。発言の際には、そのように考えた理由も説明させるようにする。 価値観や考え方によって思いやりの捉え方が変わること気付かせ、本時のねらいへの意識付けをする。
展開	<p style="text-align: center;">道徳的行為に関する体験的な学習活動 1</p> <p>○ リオ五輪で金メダル確実と言われていながら決勝で敗れ銀メダルとなった選手に、どのように声を掛けますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀メダルは立派です。感動をありがとうございました。(銀メダルを価値付ける意見) 悔しい気持ち、よく分かります。応援しているので次は必ず金メダルを取ってください。(悔しさに寄り添う意見) 最後まであきらめない姿に勇気をもらいました。私も頑張ります。(健闘をたたえる意見) <p style="text-align: center;">道徳的価値のよさに気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> リオ五輪で金メダル確実と言われていながら決勝で敗れ銀メダルとなり、悔し涙を流している選手の写真を掲示する。 教師が選手役をやり、実際に生徒と会話をします。生徒からさらに「思いやり」を引き出すことを意図して適宜言葉を返すようにする。 会話を終えた後、なぜそのように言葉を掛けたのかを明らかにさせながら、それぞれの言葉に込められた「思いやり」を浮かび上がらせ、学級で共有する。
	<p style="text-align: center;">道徳的行為に関する体験的な学習活動 2</p> <p>○ 第一志望で同じ高校を受験した親友の二人が、一人は合格し、一人は不合格だったら、互いにどのように声を掛けますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> (合) 私だけ合格してしまって、ごめんなさい。 (不) そんな顔しなくていいよ。気持ちを切り替えて、私も別の高校で頑張るね。 (不) おめでとう。これまでの努力が報われたね。 (合) ありがとう。君がそう言ってくれたことを忘れずに頑張るから、君も頑張ってくれよ。 (合) 別の高校でも、これからもずっと友達でいようね。 (不) もちろんだよ。私はこの悔しさをバネにして成長するから、見ていてね。 <p>○ それぞれの言葉にどのような思いやりがあるでしょうか。その言葉を受けて、どのように感じたでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">道徳的価値のよさに気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二人一組で活動に取り組ませる。 <ol style="list-style-type: none"> 担当を決めて活動に取り組む。 担当を入れ替えて活動に取り組む。 別の二人一組で①②に取り組む。 合格した側だけでなく、不合格だった側にも思いやりがあることに着目させるようにする。 相手の言葉に対してどのように感じたかを確認させるようにする。 <p>・ 机間巡視の間に学級全体で共有させた取組を確認しておき、③の後、指名して発表させる。</p>

終 末	<p>○ 今日の授業で考えたり感じたりしたことを、これからどのように生かしていくか、考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えと授業の振り返りを記入させる。 考えをまとめる時間を10分から15分程度取り、自分自身をじっくりと見つめさせるようにする。 あらかじめ、無理に発表はさせないことを伝えることで、自分自身について深く考えさせるようにする。 机間巡視中に学級で共有したい意見を数点確認しておく。 ワークシートを回収し、机間巡視中に確認した意見を匿名で発表し、学級内で共有させる。その際、内容から生徒が特定されないよう配慮する。
--------	---	--

〈ワークシート〉

道徳授業 ワークシート 平成28年 月 日

今日の題材 『思いやりとは……。』

1 もしも…… 場面1 どうする？

2 もしも…… 場面2 どうする？

授業中の印象に残った「仲間」の意見
氏名 理由

感想や意見など 今回の道徳で「考えたこと」「今後に活かしたいこと」は何

①今日の授業は考えることができましたか。	4
②共感・感動をしましたか。	4
③自分自身を振り返ることができましたか。	4
④新たな発見がありましたか。	4
⑤本時の資料は良かったですか。	4

年 組 番 名前

ワークシート

体験的な学習は活動中心になるようにし、終末でじっくりと自分を見つめられるようワークシートを工夫した。

「お年寄りが乗ってきたことも、席が全部埋まっていることも、気づかなかったことにしよう。」と考えると、そのまま座り続ける。

「揺れる電車の中で立っているのはつらそうだ。席を譲ったほうがいいよな。でも、私も今日はとても疲れているし、降りる駅までまだ先が長いから立つのはいやだな。」と考えると、そのまま座り続ける。

「揺れる電車の中で立っているのはつらそうだ。席を譲ったほうがいいよな。でも、私も今日はとても疲れているし、降りる駅までまだ先が長いから立つのはいやだな。」と考えると、そのまま座り続ける。

「電車でお年寄りや体の不自由な人を見かけたら席を譲りなさいって、お母さんがいつも言ってたよな。」と考えると、席を譲る。

「揺れる電車の中で立っているのはつらそうだ。僕は若いし元気だ。だから席を譲ろう。」と考えると、席を譲る。

「揺れる電車の中で立っているのはつらそうだ。僕は若いし元気だ。だから席を譲ろう。でも、声をかけるのが何だか恥ずかしいし、もし断られたらカッコ悪いよな。」と考えると、そのまま座り続ける。

導入で活用した教材

『『特別の教科 道徳』移行措置対応 中学校版 東京都道徳教育教材集』p.17～p.18 から部分抜粋

6 指導の実際

実際の活動

【ねらいとする道徳的価値の多面性に気付かせる導入の工夫】

同じ状況であっても「思いやり」の示し方には様々な方法があることや、価値観や考え方によって思いやりの捉え方が変わること気付かせ、本検証授業の中心となる学習活動がより効果的なものとなるよう、導入を工夫した。教材に示される6人の子供の姿のうち、特に4人めの子供については意見が分かれるため、そこを中心に引き上げ、ねらいとする道徳的価値の多面性に気付かせるようにした。

T：この子供は思いやりがあると言えるでしょうか、言えないでしょうか。

<4人めの子供について①>

S1：相手のことを思って、席を譲ろうという気持ちがあったから思いやりがあると思います。

T：でも実際には、席を譲ってはいませんか。それでも思いやりがあると言えますか。

S1：揺れる電車で立っているのはつらそうだと気付いているし、席を譲ろうとと思っているので、言えると思います。

T：行動に移していませんが、それでも思いやりがありますか？

S1：思いやりがなければ、席を譲ろうとは思いません。そう思う気持ちが思いやりだと思います。たとえ行動に移せていなくても、思いやりはあります。

<4人めの子供について②>

S2：自分の欲に負けてしまっているから思いやりがあるとは言えません。

T：席を譲ろうと相手をいたわる気持ちがあるのに、思いやりがないと言えますか。

S2：結局は自分のことを優先させて、席を譲る行動に移せていないから思いやりがありません。

T：席を譲ろうとした心情はどうでしょうか？

S2：行動に移せなければ、何もしなかったのと同じです。思いやりがありません。

【「よさ」に気付かせ、道徳的実践意欲と態度を育む】

【多様な指導方法を工夫する —道徳的行為に関する体験的な学習活動—】

「思いやり」の指導は、思いやる側になるように指導することに偏りがちである。本検証授業では、体験的な学習活動を通して、思いやりを受ける側の気持ちにも気付かせるよう工夫した。思いやりを受ける側から思いやりのよさに気づき、また、思いやりが受け止められたことで自尊心や自己有用感といったよさが生まれることにも気付くようにし、道徳的実践意欲と態度を育めるようにした。

T：第一志望で同じ高校を受験した親友の二人が、一人は合格し、一人は不合格だったら、互いにどのように声を掛けますか。

(S1=合格 S2=不合格)

S1：ありがとう。

S2：え？

S1：〇〇さんと同じ高校に行くっていう目標があったから、私はここまで頑張ってもらった。〇〇さんがいなかったら、私はきっと最後まで頑張れなかった。だから、ありがとう。

S2：わたしこそ、ありがとう。合格はできなかったけれど、でも、私も△△さんがいたから、今まで頑張ってもらった。合格できなくてごめんね。

S1：……。 (S2の肩を抱くようにする。)

S 2 : ……。(S 1 の肩を抱くようにする。) 合格、おめでとう。
 S 1 : ありがとう。
 (終了。他の生徒から拍手。)
 T : (S 1 に) いきなり「ありがとう」と伝えたのは、なぜですか？
 S 1 : 慰めるとか励ますとかよりも、自分が本当に感謝していることを伝えたほうが、相手を思う気持ちが伝わるのではないかと考えたからです。
 T : (S 2 に) 感謝の思いを伝えられてどうでしたか？
 S 2 : とても温かい気持ちになりました。不合格だったことは悲しいし悔しいけれど、そしてそれは変わらないけれど、自分たちが親友なのだということが確かめられて、支えられているような気がしました。
 T : (二人に) 最後に何も言葉を掛けずにいたのは、なぜですか？
 S 1 : 伝えたい気持ちが言葉では伝えられないと思ったからです。
 T : それは、どのような気持ちでしょうか？
 S 1 : 頑張っしてほしいとか、ショックから立ち直っしてほしいとか、自分だけ合格してごめんとか、これからも仲良しでいようねとか、そういうことが一気にあふれてきてという感じです。

<授業後の生徒の感想(抜粋)>

- ・ 授業のはじめに「思いやり」と聞いたときは、ふだんの道徳と同じような授業かと思ったけれど、みんなで話し合ったり演技をしたりする中で、相手が自分の言葉をどのように感じるのかということについてじっくりと考えることができた。これからは自分の言葉や行動が相手にどう伝わるのか、もっと意識していきたいと思う。
- ・ とても考えがいのある内容で面白かった。思いやりとは「相手のことを考えること」だという一見当たり前のことについて、とても深く考えた。そして、考えることと同時に、行動に移すことの大切さも実感した。相手を思うことと、その思いを行動に移すことを、しっかりと実行していきたい。
- ・ 今日の授業では「思いやり」について考えましたが、人によって「思いやり」の捉え方や考え方が違うということがよく分かりました。同時に、やはり思いやりは行動に移すべきだと思いました。思いやりの心を行動に移していくことで、周りの人を温かい気持ちにすることができるので、それができる自分でいたいと思いました。
- ・ 実際に二人で「思いやり」についての演技をしたら、本当にそういう状況にいるような気がして、不合格になったわけでもないのに、相手の言葉がとてうれしかった。逆に自分が合格した側のときは、どう言葉を掛ければいいのか、本当に悩んだ。自分が相手を思いやることもとても大切だが、自分が周りの人たちから思いやりをもらっていることに気付くことも、とても大切なことだと思った。
- ・ 一言で「思いやり」と言っても、様々な形があることが驚きでした。私は、どのような言葉で言えば相手を励ませるかということばかり考えていましたが、敢えて何も言わずに肩を抱いたり、黙ってそばにいてあげたりすることも、思いやりの行動なのだということが分かりました。また、自分にとっては思いやりのつもりだったとしても、相手にとっては迷惑だったり逆効果だったりすることもあって、とても難しいと思いました。それでもしっかりと考えながら、思いやりのある人でいたいと思いました。

7 成果と課題

【「よさ」に気付かせ、道徳的实践意欲と態度を育む】

(1) 成果

- ・ 生徒が身近に感じられる題材を取り上げたことで、何が思いやりなのか、どのように考え実行していけばよいのかについて、深く考えさせることができた。また、発表や体験的な学習活動を通して、思いやりの心をもって人に接することや、相手から思いやりの心を受け取ることの「よさ」を実感させることができた。ワークシートの自己評価欄の「共感・感動したか」の項目では、検証授業を行った学級の平均評価は4段階評価で3.8であった。
- ・ 導入の工夫により、思いやりの多面性に気付かせることができ、その後の学習活動がより効果的なものとなった。「この行為はよい」、「この行為は悪い」といった判断をさせるのではなく、「なぜこのような行為をしたのか」、「そのとき、どのような気持ちだったか」などと価値観や考え方の違いに着目させたことで、その後の活動においても、互いの意見や考え方を尊重しようとする様子が見られた。

(2) 課題

- ・ 一つ一つの課題（具体）について、その「よさ」を実感させることはできた。一方で、生徒が今後出会うであろう様々な場面において、どのように考え、判断し、行動していけばよいのかについて、考えさせる時間を十分に取れなかったことが課題である。授業後の生徒の感想をプリントにして配布するなどして、継続的に考え続けさせたい。

【多様な指導方法を工夫する ―道徳的行為に関する体験的な学習活動―】

(1) 成果

- ・ 思いやりの心をもって人に接することの大切さは、どの生徒も理解している。それゆえに、模範的な意見を述べさせたり教師が言わせたいと思っていることを言わせたりする授業に陥りがちな側面がある。道徳的行為に関する体験的な学習活動を取り入れたことで、どのような思いや判断を基に、どのように行動するか、ある場面について一人一人の生徒に真剣に考えさせることができた。また、二人一組で活動を行わせたことで、生徒全員の前で発言するのが苦手な生徒も積極的に活動に取り組み、自分の意見を述べたり互いに学び合ったりすることができていた。
- ・ いわゆる役割演技などの学習活動の工夫は、特に中学生という発達段階では恥ずかしさなどが勝ってしまい取り組ませにくい実態がある。しかし、「思いやり」のように人と人が直接関わり合う場面で求められる道徳性などについては、体験的な学習活動を取り入れることが効果的であることが分かった。本検証授業では、第3学年を対象としたため、やがて向き合うこととなる受験の合否という場面について考えさせた。発達の段階や生徒の置かれている状況に応じて発問の内容を工夫することで、第一学年や第二学年においても、効果的な授業となることが期待できる。

(2) 課題

- ・ 体験的な学習活動では、考える→やってみる→振り返る→課題を発見し改善する→やってみる→振り返る、というように活動させることと並行して自分の活動を客観的に見つめさせることが重要である。生徒は時として活動にばかり興味が向いてしまい、その活動を振り返ったり見つめ直したりすることができないこともある。活動の意味や目的を明確に示し、生徒の様子を観察しながら適宜助言するなどして、活動を深めさせていくことが重要である。

VI 研究の成果と課題

本研究は、生徒に身に付けさせるべき道徳性の中で、「道徳的実践意欲と態度」に焦点を当て、研究主題を「道徳的実践意欲と態度を育む多様な指導の工夫」として研究を行ってきた。

以下に、研究の成果と課題、仮説及び仮説の検証を整理する。

— 仮説 —

授業の主題やねらい、生徒の実態や発達段階、教材の特性などに応じた多様な指導方法を工夫して道徳的行為を实践することのよさを実感させることを通して、道徳的価値を実現しようとする意志や道徳的行為への身構えをもたせることができ、道徳的実践意欲と態度を育むことができるだろう。

本研究では、上記のように仮説を設定し、以下の3点から、仮説の検証を行った。

- ① 問題解決的な学習活動を取り入れることで、道徳的実践意欲と態度を育む。
- ② 登場人物への自我関与が中心の学習活動を取り入れることで、道徳的実践意欲と態度を育む。
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習活動を取り入れることで、道徳的実践意欲と態度を育む。

① 問題解決的な学習活動について（第一学年）

〔成果〕 「節度・節制」について指導する際には、自己の生活への反省にとどまらせないようにすることが大切である。なぜなら、反省からだけでは実践意欲と態度は育まれないからである。教材の登場人物へのアドバイスをし、それを踏まえて自分自身にアドバイスをするという問題解決的な学習活動を取り入れたことで、生徒に、節度を守り節制に心掛けながら生活することのよさを意識させながら自己を見つめさせることができた。また、自分自身のことについて発表させたり交流させたりしないようにしたことで、生徒一人一人により深く自己を見つめさせることができた。

〔課題〕 問題解決的な学習活動においては、小グループなど複数の生徒が互いの意見や考えを交流させていく中で、より効果的な解決策を見いださせる方法が効果的である。一方で個人の内面や個別の課題については、他者を意識せず個人でじっくりと考えさせることが有効である。本検証授業では一つめの質問では交流活動を行わせ、二つめの発問については個人で考えさせた。それぞれの内容項目の特質に応じて適切に活動を工夫していくことが必要である。

② 登場人物への自我関与が中心の学習活動について（第二学年）

〔成果〕 登場人物への自我関与が中心の学習活動は、道徳的価値や課題について自分のこととして考えさせるのに非常に効果的な活動である。「なぜこのような行動を取ったのか」、「どのように考えてこうしたのだろうか」など、登場人物により深く入り込ませていくことで、考えを深めさせ、自己との対話を掘り下げさせることができた。

〔課題〕 一つの物語として教材を読ませ、登場人物の心情を理解させただけの授業とならないよう、授業でねらいとする道徳的価値を明確に示すなど、何のために教材を読むのかを生徒に意識させることが大切である。また、生徒がねらいに即して自我関与していけるよう、教師が教材の内容や特性を理解し、発問についても十分に吟味しておくことが必要である。教材によっては、生徒に自分の負の部分ばかり見つめさせることになったり、反省ばかりを促すことになったりしてしまうこともありうる。本研究の仮説にあるように、道徳的価値を实践していくことの「よさ」を実感させるという観点から、教材を選んだり授業展開や発問を工夫したりすることも求められる。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習活動について（第三学年）

〔成果〕 道徳的行為に関する体験的な学習活動は、道徳的価値を実践することの「よさ」を授業の中で直接実感することができ、道徳的実践意欲と態度を育むことにつながる非常に効果的な工夫であった。本検証授業ではねらいとする道徳的価値が「思いやり」であったため、思いやりは大切で必要なものであるとの共通見解の上に活動が進んだが、葛藤が生じるような場面や内容についても、成果が期待できる。

〔課題〕 既に述べたように、道徳的行為に関する体験的な学習活動は、活動ばかりが主体となってしまうように配慮することが重要である。気づきや学び、深まりが発生しなければ、活動の意味がなくなってしまうことを、まず教師が認識しておくことが大切である。また、このような活動に取り組みせると、ついふざけてしまったり敢えて意図と反対の言動を取ろうとしてしまったりする生徒もいる。授業のねらいをしっかりと理解させ、真剣に活動に取り組みせるよう教師が導くことが大切である。

以上、三つの検証授業を振り返ってみた。

本研究は、道徳的実践意欲と態度を育むことを目的とし、そのために「問題解決的な学習活動」、「登場人物への自我関与が中心の学習活動」、「道徳的行為についての体験的な学習活動」の三つの工夫を取り入れた授業実践を行った。道徳的実践意欲と態度を育むことについて、これらの指導方法の工夫が有効であることは、生徒の自己評価や感想、教師の観察などから検証できたと考える。しかし、これらの指導方法の工夫は、どのようなねらい、生徒の実態、教材にも等しく有効であるというものではない。本研究の仮説に「授業の主題やねらい、生徒の実態や発達の段階、教材の特性などに応じた多様な指導方法を工夫して」とあるのは、その点を踏まえたものである。その意味で、ねらいや教材、生徒の実態に即して、異なる指導方法の工夫を取り入れたことで、それぞれの授業において生徒の成長を促すことができた。

平成31年度からの「特別の教科 道徳」の全面実施に向け、道徳の授業の在り方や指導方法の工夫について、様々に議論や研究が進められている。『『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る』¹²ことを目指す中で、では「考える道徳」とはどのようなものなのか、どうすれば「議論する道徳」になるのか、模索が続いている。しかし、ここで忘れてならないのは、「考える道徳」も「議論する道徳」も、「手段」であるということである。あくまでもそれらは生徒の道徳性をより一層育むための工夫であり、それらを授業の中に取り入れることが「目的」であるわけではない。それを見誤らないことが重要である。本研究において三つの工夫を取り入れたのも、それらをねらいとする道徳的価値や教材の特性、生徒の発達の段階や実態に照らし、成果が得られるものと判断して設定したものである。そしてそれぞれ課題は残るものの、授業の中で生徒にねらいとする道徳的価値を実践することの「よさ」を実感させることができた。生徒のより一層の成長を促すために授業を工夫するという、指導の根幹を改めて確認しておくことが大切である。

本研究は、『特別の教科 道徳』の指導方法・評価などについて（報告）」において「指導する教師一人一人が、学校の実態や児童生徒の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた適切な工夫改良を加えながら適切な指導方法を選択すること」が重要であるとした上で、「道徳科における質の高い多様な指導方法の工夫」の一例として示された三つのモデルを参考として授業実践を行った。生徒の豊かな心の育成を目指し、今後も継続して新たな指導方法の工夫について研究を続けるとともに、一回一回の授業を充実させていきたい。

¹² 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 p.2

平成28年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 道 徳

学 校 名	職 名	氏 名
世 田 谷 区 立 東 深 沢 中 学 校	主任教諭	片山 順平
中 野 区 立 第 八 中 学 校	教 諭	浅賀 智裕
三 鷹 市 立 第 六 中 学 校	主幹教諭	島田 健一
府 中 市 立 府 中 第 三 中 学 校	主任教諭	高原 一晃
東 久 留 米 市 立 西 中 学 校	主幹教諭	◎ 渡邊 俊雄
東 京 都 立 小 石 川 中 等 教 育 学 校	教 諭	齋藤 隆徳

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 吉川 泰弘

平成28年度

教育研究員研究報告書
中学校・道徳

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス